

令和元年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

( 中間 最終 )

安浦中学校区 校番 35 学校名 呉市立安登小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
*** 確かな学力	課題発見・解決学習を通して、学力の定着や向上を図る。(まなぶ)	主体的・対話的な授業づくりの工夫により、思考力・判断力・表現力を高める。	○学期末テスト国語科読む能力(92%) 算数科数学的な考え方(68%)平均(80%)で、目標値を達成することができた。 ○国語科では数値の向上がみられたが、算数科において大きく数値が下がっていた。文章題において、文章の意味を捉え、それを図式化して表したり、言葉で問題の解き方を説明をしたりすることに課題がある。	○児童が自分の考えを根拠を明確にして表現する場、それを交流し合って考えを深める場を意識的に授業の中に取り入れる取組を継続する。 ○算数科においては、自分の考え方を図や言葉で記述し、説明することを全学年において日々の授業の中に確実に位置づける。
		学びの基礎・基本を定着させる。(知識・技能)	○国語科(81%)算数科(70%)平均(76%)で、目標値を達成できなかった。読解力向上のための反復学習や課題の重点化や個々の課題に対する個別指導は有効であったが、ドリルタイムの目標設定の取組が不十分で、算数的技能や理解度の個人差が大きく課題が残る。 ○自主勉強に取り組んでいる児童は100%で目標値を達成した。自主勉強リストの活用やモデリングが有効だった。児童アンケートの「進んで取り組んでいる」が79%で、意欲づけに課題がある。	○単元末テストによる個々の課題把握と個別指導を継続する。 ○ドリルタイムの取組で目標値の設定やつまずきの振り返りを充実させる。 ○計算力や作図技能などを確実にするため、下学年の内容を含めた反復練習に取り組む。 ○自主勉強リストの活用を継続する。テスト学習や予習による授業とのリンクなどを提案し、自主勉強の意義や効果を感じられるような取組をしていく。
** 豊かな心	感謝と貢献の心を持ち、協働して取り組むことのできる心を育む。(はぐくむ) (つながる)	「時を守り、場を清め、礼を正す」指導による規範意識の涵養	○パワーアップカードの取組では、毎日継続して声かけをし、振り返りを続けることで、肯定的回答をした児童は91%と児童の意識は高かった。しかし、「名前を呼ばれたら大きな声で『はいっ』と返事をしている。」については、児童の肯定的回答が95%に対して、教師の見取り評価が56%と低く、大きく差が開いており、児童と教師の意識のずれが生じていることが分かる。 ○「はきものそろえている。」については、児童の肯定的回答は94%と高いが、トイレのスリッパを揃えることについては課題が残る。 ○「無言掃除」については、肯定的回答が90%から83%と低くなっており、児童への無言掃除の意味付けを意識化させることに課題があったと考えられる。	○「大きな声で返事をする。」ことについて、よりよい返事の仕方を提示したり、繰り返し練習させたりすることで、「大きな声で返事をする。」ことを身に付けさせる。 ○定期的にトイレのスリッパの揃え方を評価し、自主的にトイレのスリッパを揃えることができるようにする。 ○無言掃除については、「そうじ名人」の取組を行い、意識付けを行う。
	自己肯定感の高揚を図る。	○地域を題材にして、地域の方と交流しながら学習を進めることにより、ふるさとのことを知り、愛着をもつことのできる児童が増えた。 ○高学年は、低学年の世話に取り組むことで、自己肯定感の向上につながった。 ○体験的な活動によって、地域の特産物に対して自分が貢献できたという意識が高まった。 ○帰りの会で互いの良いところや頑張ったところを発表したことで、より互いの良いところが目に向くようになった。	○運営委員会の「親切さんありがとうBOX」や帰りの会の取組など、これからも継続的に取り組んでいく。 ○学習してきたこと地域に発信していくとともに、地域に貢献できた実感できる活動・学習を進めていく。	
* 健やかな体	主体的にかかわり、健やかでたくましい体を育む。(はぐくむ)	体力・運動能力の向上を図る。	○11月の新体力テスト(重点とする3種目)の結果は、どの学年も5月の記録より伸びていた。 ○県平均を超えた児童の割合は、50m走62.7%、立ち幅跳び77.9%、握力83.9%であった。この結果を分析してみると、重点種目につながる有効な運動を取り入れること、再テスト前には、前回の記録を超えるように声をかけることで目標を達成することができたと考えられる。 ○重点種目として取り組むことで記録が向上することから、今後も年度ごとに課題となる種目を決め、重点的に体力の向上を図っていく必要がある。	○体育の授業や朝の会で、継続的に運動することでも体力向上を図る。 ○大休日の外遊びについては、運動委員会を中心に、全児童が運動に親しむように声をかけていく。 ○児童個人には、新体力テストの結果を体力カルテを活用して自己分析させ、自分がどんな運動を取り入れると良いか意識し、実践できるようにする。
	基本的な生活習慣を定着させる。	○11月に体いきいきカードを実施し、生活習慣の確立を図った。朝食については、前日から同様意識が高く、保護者・児童ともに91%を超えている。赤・黄・緑の食べ物を積極的に摂るようになってきている。1学期の課題であった緑の食べ物の摂取率は、71%から76%に上がっていた。カードで色ごとにチェックすることで緑の食べ物が不足していることを意識できたからと考えられる。 ○メディアについては、児童への意識を高めるためにStop9の取組を始めたが、保護者と児童での肯定的回答にまだ差がある。	○今後も給食放送や保健だより、掲示物を通して児童の意識をさらに高めていく。 ○体いきいきカードの取組後、ふり返りを行い生活習慣の問題点に気づかせるようにする。 ○メディアに依存しないために今後もStop9の取組を進め、メディアに対する意識を変えていきたい。	
業務改善	働き方改革を推進する。	教職員の意識改革を図る。	○児童と向き合う時間が確保できていると感じる教職員は、約90%で目標を達成した。研修や会議の時間を計画的に進めることができたことに効果があったと考えられる。 ○時間外勤務時間が月80時間未満の職員は、100%だった。退校時刻を意識して仕事をすることができたからだと考えられる。	○今後も、計画的に研修や会議を進め、児童と向き合う時間を確保していきたい。 ○今後も、退校時刻の確認・設定を毎朝することで、仕事を効率的にすることを心がけていきたい。